

38. 正解 a

診断所見 右乳腺 D 領域に不整形腫瘤を認める。内部は低エコーで、後方エコーは減弱している。辺縁はスピキュラ状で、境界部高エコー像が認められる。縦横比は大きく（縦長の腫瘤）、前方境界線は断裂している。

硬癌は乳癌の中で最も頻度が高い。乳管外増殖が高度で、間質結合織の増殖を伴う。超音波所見は特徴的で、形状は不整形から分葉状、辺縁はほとんどの症例でスピキュラを呈する。また辺縁部には周囲浸潤を示唆する境界部高エコー（halo）を認めることが多い。また結合織成分が多く、腫瘤が硬いため、内部は低エコーで、後方エコーの減弱が認められる。縦横比が高いことや前方境界線の断裂も、強く悪性を疑う所見であり、本例は典型的な硬癌と考えられる。

39. 正解 c (or b?)

診断所見 右乳腺内に腫瘤を認める。分葉状で、辺縁は平滑、内部は T1 強調像、T2 強調像とも周囲より若干の高信号を呈している。内部は比較的造影されるが、造影早期相では低信号隔壁構造（dark internal septation）を認める。ダイナミック画像所見は早期相で中程度に造影され、後期相では漸増（medium - persistent）している。

形態、辺縁、ダイナミック画像所見からは良性が考えられ、低信号隔壁の存在から、線維腺腫と葉状腫瘍に絞られる。ここからが問題で、この二つを鑑別できるであろうか？低信号隔壁は線維腺腫でよく知られているが、葉状腫瘍でも認められ、両者の鑑別点にはならない。他の所見も同様である。今回は比較的サイズが小さく、境界明瞭、内部均一であること（葉状腫瘍によく見られる嚢胞形成がないこと）を考え、線維腺腫を第一の解答としたが、葉状腫瘍を否定する根拠はなにもない。ただし、T1 強調像で高信号の線維腺腫というのは稀であり、ひょっとすると出血をきたした葉状腫瘍の可能性もあるが、何とも言えない。このサイズの線維腺腫と葉状腫瘍は鑑別困難と考えられており、この問題の意図は出題者に聞くしかない。

以上、解答 38～39 は長沢 研一会員（旭川医科大学）